

インフルエンザの発生状況(富山県)

【第 9 週 (2026/2/23~3/1) 感染症発生動向調査速報値 (2026/3/4 時点)】

定点医療機関※新規患者報告数： **1,464** 人、定点医療機関当たり **31.15** 人

※急性呼吸器感染症定点 (旧インフルエンザ/COVID-19定点、小児科29定点、内科18定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)

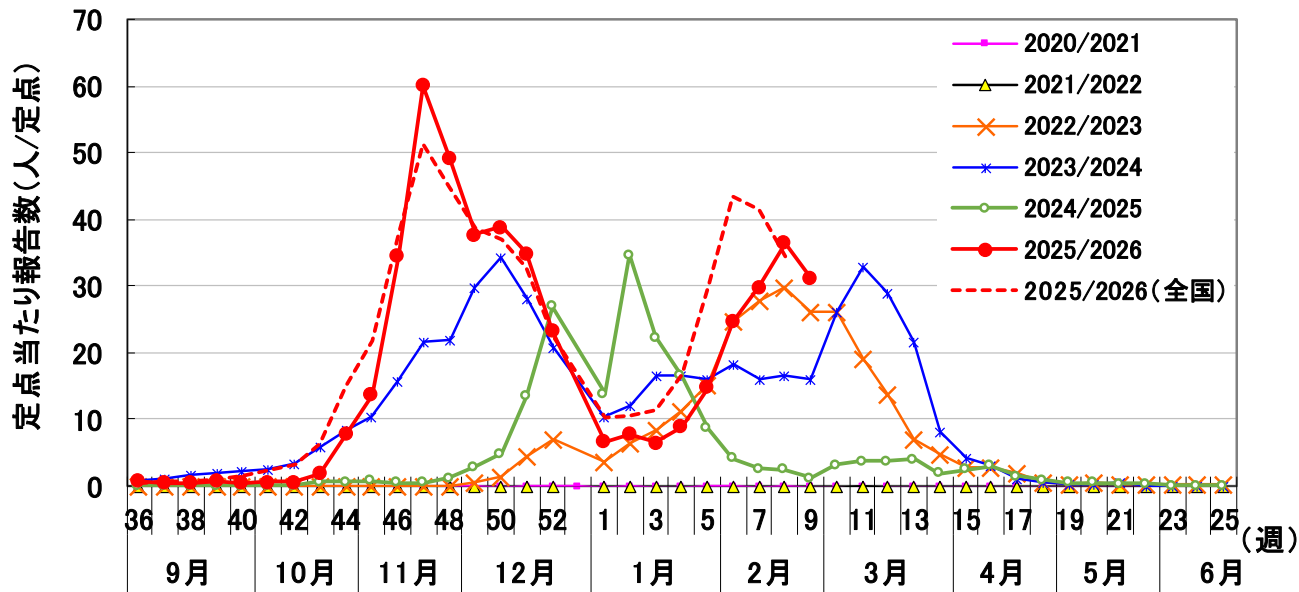
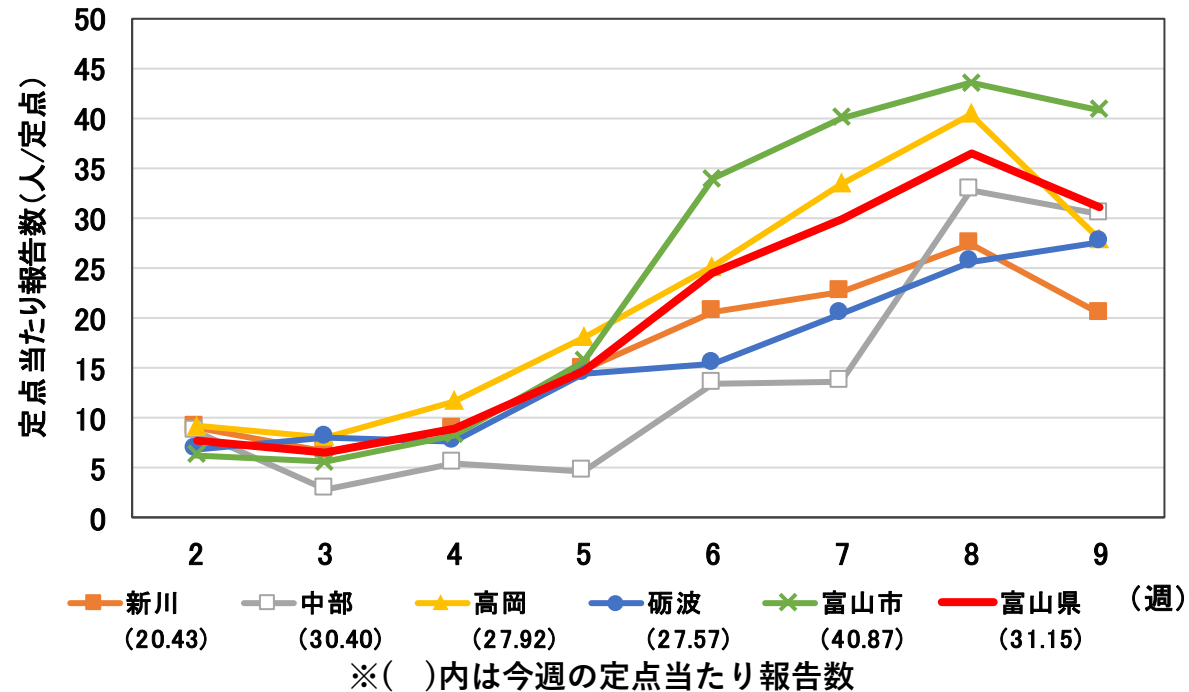
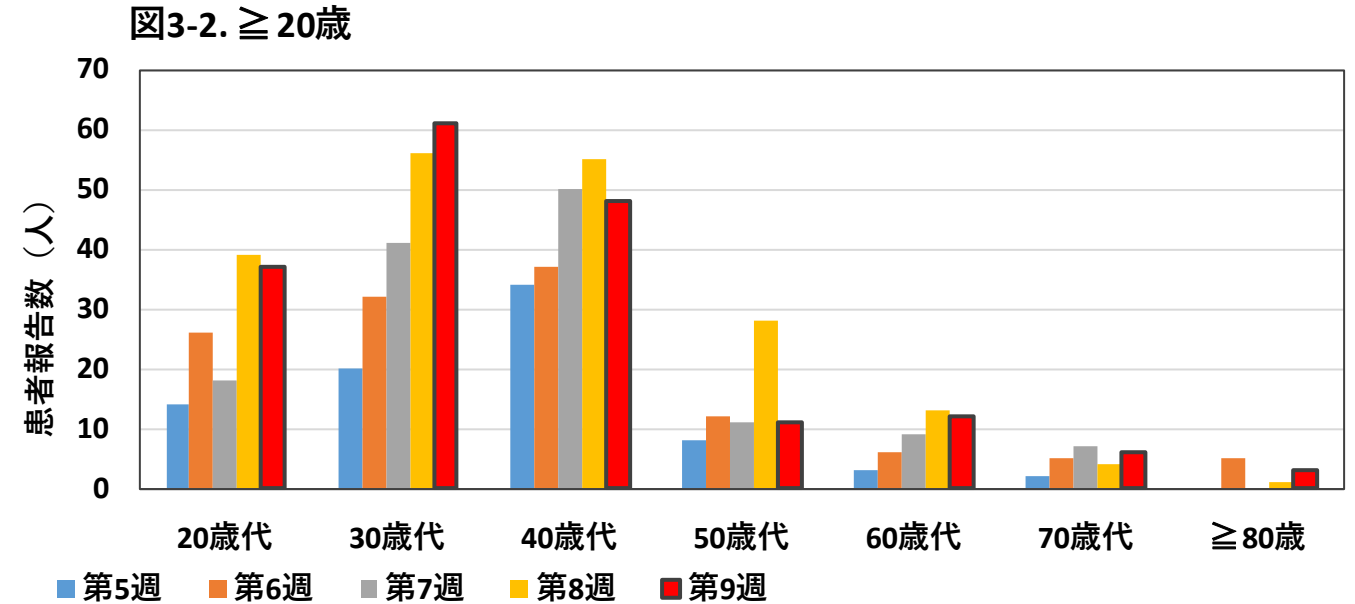
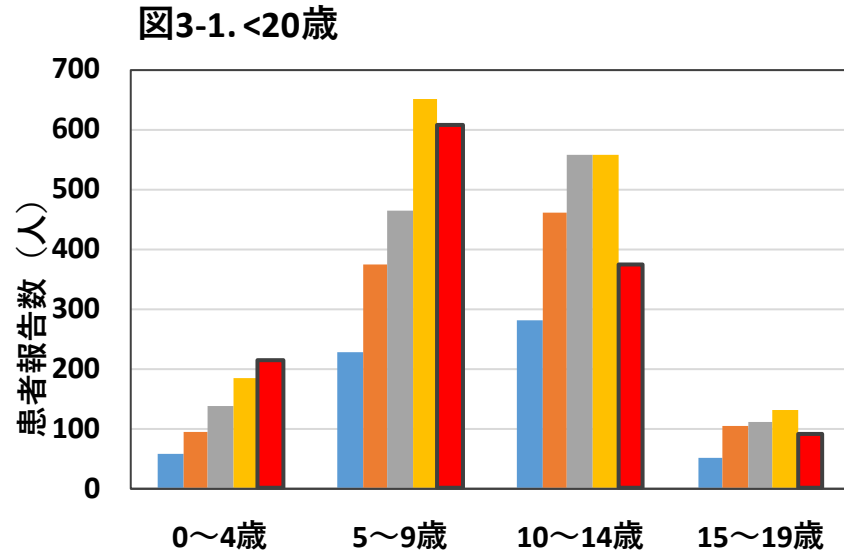


図2. 厚生センター・保健所管内別患者報告数の推移



- 富山県の患者報告数は今週31.15人/定点となり、先週 (36.51人/定点) から減少した。しかし、先週に引き続き警報開始基準の30.0人/定点を超えた (図1)。
- 厚生センター・保健所管内別に見ると、砺波管内を除くすべての管内で先週から減少した。(図2)。

図3. 年齢階級別インフルエンザ報告数の推移（富山県）



※定点医療機関は小児科が多い（小児科：29定点、内科：18定点）ことから、小児の報告数は成人と比較して過大評価となることに留意する必要がある。

- 0～4歳、30歳代、70歳以上の年代で先週から増加した一方、その他の年代では先週から減少した。

図4. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第8週)

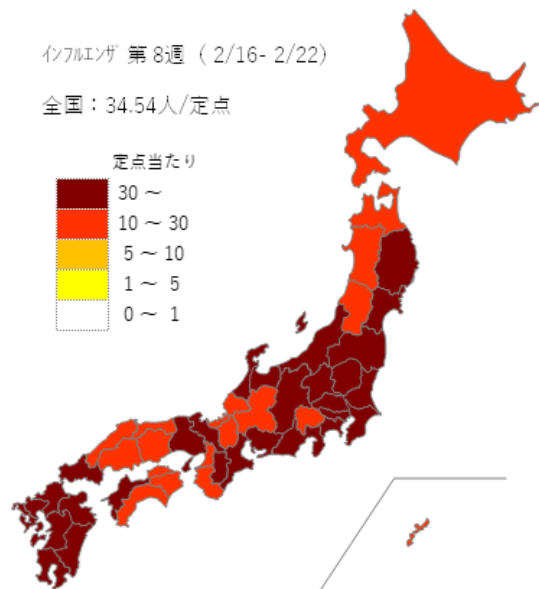


図5. インフルエンザ入院サーベイランス

患者報告数の推移 (富山県)

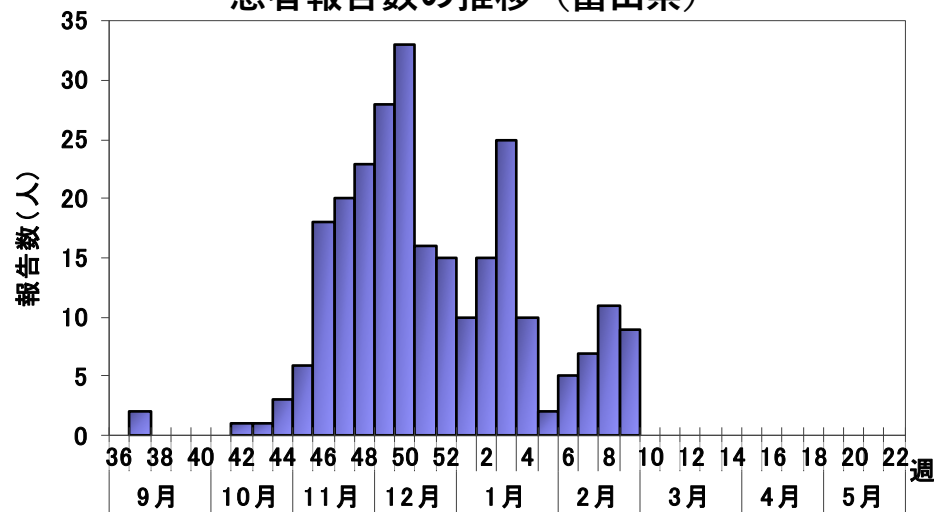
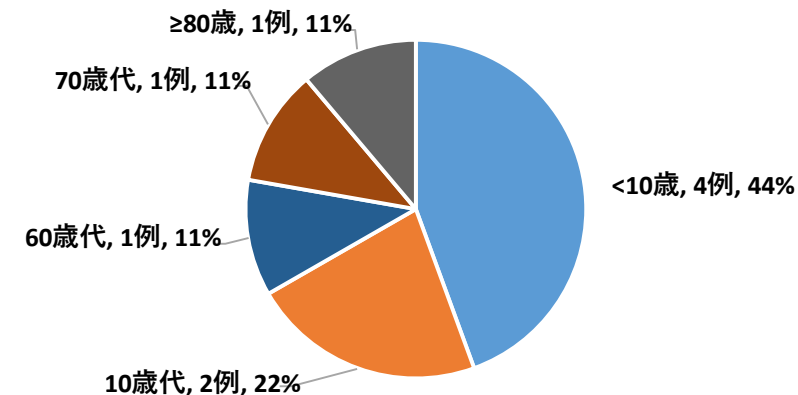


図6. インフルエンザ入院サーベイランス

年代分布 (第9週、9例)



- 全国では第8週に34.54人/定点となり、第7週 (41.44) から減少した。都道府県別では、29都府県で警報開始基準の30.0人/定点を超えている (図4)。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランスでは、今週9例の報告があり、先週 (11例) から減少した (図5)。
- 入院患者の年代は、10歳未満4例、10歳代2例、60歳代、70歳代、80歳以上が各1例で、20歳未満が66%を占めた (図6)。
- 第9週はインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告が30件 (幼稚園1件、小学校21件、中学校5件、高等学校2件、その他1件) あった ([富山県インフルエンザ関連情報](#))。
- 県内の患者報告数は第4週以降増加が続いていたが、今週は減少した。また、B型の検出割合は88.9% (第8週88.2%) と依然多くを占めている ([富山県感染症発生動向速報2026年第9週](#))。第9週は祝日により定点医療機関の診療日数が少なく、流行を過小評価している可能性があり、引き続き発生動向を注視する必要がある。